

2008 年度

科目名 文化財科学Ⅰ（分析科学）	対象学科・学年 文学部文財1回生	担当者 三辻 利一
授業テーマ 考古学と自然科学（科学的発掘の思想の発展）		
授業の概要と目標 現在の文化や生活は過去の人々の活動の歴史の上に成り立っている。我々の現在と未来を考える上には、過去の人々が残した文化活動を学ぶことは不可欠である。シュリーマンのトロイ遺跡の発掘を通して科学的発掘の考え方が考古学に定着した。これを契機に種々の自然科学の方法や考え方が考古学に導入されることになった。このような考え方から、考古学と自然科学を中心に考古学の発展の歴史をたどる。		
評価方法 レポートと出席日数で評価する。		
テキスト テキストは使用しない。そのかわり、印刷物を配布する。	著者	出版社
参考書 講義の都度、種々の参考書を紹介する。	著者	出版社
授業スケジュール・内容 1. 歴史時間（過去と現在） 2. 宇宙史時間、地球史時間、人類史時間、文明史時間 3. 現代考古学の原点としてのトロイ遺跡の発掘（科学的発掘の思想の誕生） 4. エジプト古代文明（1） 地理と古代エジプトの歴史 5. エジプト古代文明（2） ピラミッド、ミイラ、ヒエログリフ 6. メソポタミア文明（1） 楔形文字の解読とギルガメシュ叙事詩 7. メソポタミア文明（2） 科学的発掘の思想とメソポタミアの遺跡の発掘 8. メソポタミア文明（3） シュメール文明の発見 9. 中国古代文明 遺跡の発掘と殷遺跡の発掘 10. 秦始皇帝とその関連遺跡 11. 魏志倭人伝を読む 12. 古墳時代と前方後円墳体制 13. 日本考古学の伝統（濱田耕作の功績） 14. 新しい方法の導入（自然科学の方法の導入） 15. 三角縁神獣鏡は何处でつくられたか？ 16. 新しい土器の考古学		